

交渉NEWS

東日本ユニオン東京地本

NO, 6

2020年 2月 21日

『2020年3月ダイヤ改正に関する申し入れ』の回答交渉

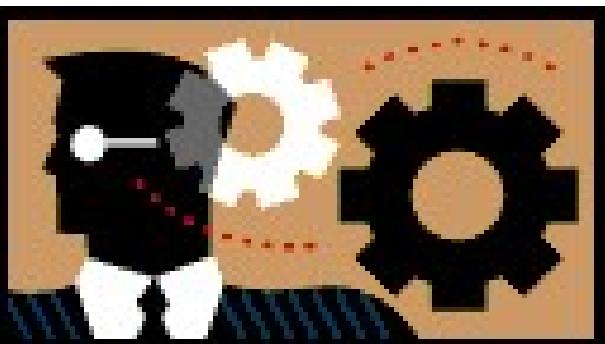
2020年2月19日、申9号『3月ダイヤ改正に関する申し入れ』の回答・交渉を行いました。言うまでもなく、東京支社の「1年間の商品」をダイヤ改正で決定しお客様に提供することになります。地本では、皆さんのが声をもとに「究極の安全の追求」「ひと」として「労働環境の整備」を要求項目の柱にしました。交渉では真摯で建設的な意見交換を行いました。

★支社側の主な主張★

- ・まず「列車ダイヤ」がある、「作成規程」にある「必要な時間」の確保。
- ・行路作成では「効率的」が第1義。そのために他支社と調整している。
- ・列車の遅延には様々な原因がある、遅延対策に取り組む。
- ・備品については「何が必要か?」「タイミング」など考え改善する考えはある。
- ・「供食体制改善」では、『オフィスキヨスク』を職場に導入している。
- ・様々な「PT」は“人材育成”が目的。「PT」に成果は求めていない。
- ・常磐線運転再開では、国が「大丈夫」と言っている、対策は考えていない。
- ・交番順序表は、職場で検討・決定している。
- ・「規程」が全てではない、睡眠・食事のための乗務の中斷の混在を改善している。
- ・職場でのコミュニケーションは重要である。

★私たちの主な主張★

- ・行路作成は、“ゼロベース”で考えるべき。
- ・我々は「人間」である、乗務時間・乗務キロの軽減を求める。
- ・「働き方改革」と言われているがJRでは“労働強化”となっている。
- ・行路と生活サイクルや休養・睡眠などの関係性を研究すべきである。改めて論議したい。
- ・社員の声に基づいた職場環境改善を望む。職場のコミュニケーションの質の向上を求める。
- ・「PT」は広く職場の声を聞くべき、職場から“ダイヤ改正”をビルトアップすべきである。
- ・30年以上トイレ新設を求めているが進展がない、どうなっているのか。
- ・勤務作成・指定は社員にもっと配慮すべきである。
- ・「究極の安全」を追求していく。



問題や課題は放置したままだとマイナスに増殖してしまいます。「要求実現」には職場でのコミュニケーションがポイントになります。職場管理者を含め多くの“仲間たち”と話をしていきましょう。

グループ会社に働く仲間たち多くいます。「JR本体だけで良い」など思っていては、決して良い結果は得られません。ワンチームで行きましょう。